

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/10/25号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

インフレ警戒感がゴールドを下押し

SPDR Gold Shares円建価格

ゴールドとドルインデックス



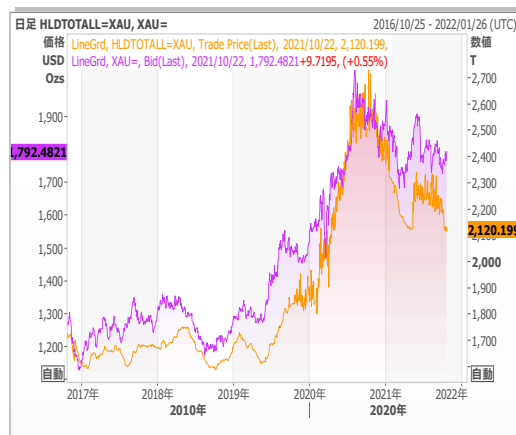
インフレへの警戒感がゴールドを押し上げて来ましたが、前回のレポートに時間がかかってふたたび1800ドルをトライするでしょうと書きましたが、さっそくふたたび1800ドルのトライがありました。1760ドル台から始まった前週のゴールドはじわりと上昇、金曜日にはふたたび1800ドルをトライ、前は抜けることができませんでしたが、今回は1800ドルを完全に抜けて、一時1813ドルまで上昇しました。しかし、そのタイミングで南アの中央銀行であるリザーブバンク主催の会議でパウエルFRB議長が債券買い入れの縮小は予定通り、2022年半ばには完了という発言。これがマーケットに氷水を浴びせた形でゴールドは一瞬にして高値から一時30ドルの急落し1783ドルまで下げました。そしてそこから10ドル上げて1793ドルでゴールドは一週間を終えました。個人的にはこのパウエルショックの下げからの戻しが、マーケットの状況を端的に示しているのではないかと思います。つまりマーケットはインフレに対する警戒感が増してきており、FRBのテーパリングもそろそろ織り込み済み、パウエル議長の発言により短期的な反応で売られることがあっても、冷静になると買いが強くなるということで、インフレ懸念が相当強くなってきているのだと思います。おそらくゴールドはふたたび1800ドルを回復し、もし1830ドルを超えることがあれば、より大きなインタレストが入ってくるのではないのでしょうか。パウエル議長自身もサプライチェーンの分断は予想よりも長く続いており、インフレ率の高止まりも2022年中は続くかもしれない、と述べ、transitoryがどんどん延長されており、やはりもはやtransitoryとは言えないインフレ状態が実質的に続いています。ゴールドは上昇するエネルギーを貯めているでしょう。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

【マーケット・トピック】

ゴールドの需要と供給 (3)

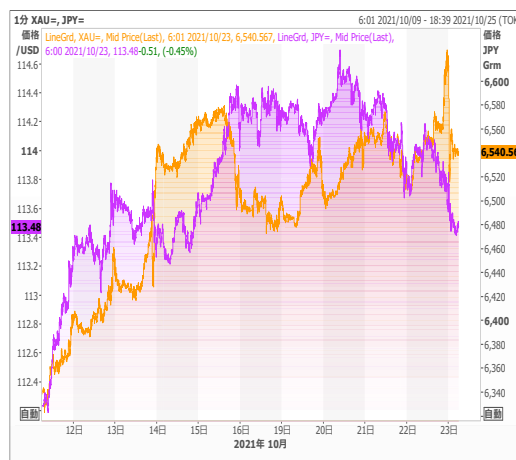
ゴールドには「生産コスト」があります。これは鉱山からゴールドを掘り出し、それを精錬して地金にするコストです。生産コストは、当然のことながら各ゴールド鉱山によって大きく違います。1トンの金鉱石あたりに含まれるゴールド純分は鉱山、鉱脈により大きく違ってきます。ゴールドの含有量が多ければ多いほど、生産コストは低くなり、少なければ少ないほどその手間は増えるので、生産コストは高くなるということです。ですから、ゴールドの生産コストを出すためには、各金鉱山のコストをまとめ、国別そして地域別の平均を出すという方法でMetals Focus社が出しています。All-in Sustaining Cost (AISC: トータル鉱山継続コスト) というのが、採掘コストに鉱域の使用免許コストや鉱山の維持のための資本コストその関係する事務管理費用など、すべてのコストを合わせたものであり、これがゴールドを採掘するためのコストだと言えます。最もAISCが安い地域はロシアを中心とするCISで721ドル、その次はアジアの856ドル。最も高いのが欧州1090ドル、北米1083ドルとなります。個別の鉱山でみると、最新のデータでは世界最大の産金会社であるBarrick社の米国のLong Canyon というゴールド鉱山がなんと156ドル、Kirkland Lake社のオーストラリアのFosterville鉱山は423ドルと非常にコストが安い鉱山もあります。世界のゴールド鉱山の生産コストの平均は986ドルとなり、現状のゴールド価格が1800ドル近辺にあるということは、その生産コストはほぼ半分に近いレベルであり1オンス当たりの利益は800ドルを超え、ゴールド鉱山は、現在非常に大きな利益を上げているのです。現在のマーケットは生産コストに関係なく、現物の需給がコントロールする実需ではない投資需要が価格を決めている状況です。鉱山会社にとってはこの上なく好ましいマーケットだと言えるでしょう。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

